



御船町の取り組み

～地域づくり型の介護予防活動、及び健康格差対策の推進～



御船町地域包括支援センター



御船町の概要

東西約20km 南北約10km

総面積は99 K m²

林野面積56.3%

10地区、79行政区

過疎化が著しい中山間地域

行政機能が集中した平坦地域

人口：17,039人

65歳以上人口：5,949人

75歳以上人口：3,091人

高齢化率：34.9%

第1号被保険者数：5,979人

介護認定者数：1,132人

認定率：18.9%

(令和5年4月1日現在)

第8期介護保険料 6,400円

新総合事業 平成27年10月移行

旧小学校区ごとの人口（R5. 4. 1現在）

		人口		高齢化率
		人口	うち65歳以上	
平坦地	御船	5,821人	1,788人	30.7%
	滝尾	1,118人	429人	38.4%
	木倉	2,784人	920人	33.0%
	高木	2,178人	762人	35.0%
	小坂	3,128人	895人	28.6%
中山間地	水越（A地区）	275人	199人	72.4%
	七滝（C地区）	494人	275人	55.7%
	上野（D地区）	597人	306人	51.3%
	田代東部（E地区）	470人	268人	57.0%
	田代西部（B地区）	174人	107人	61.5%

取組概要

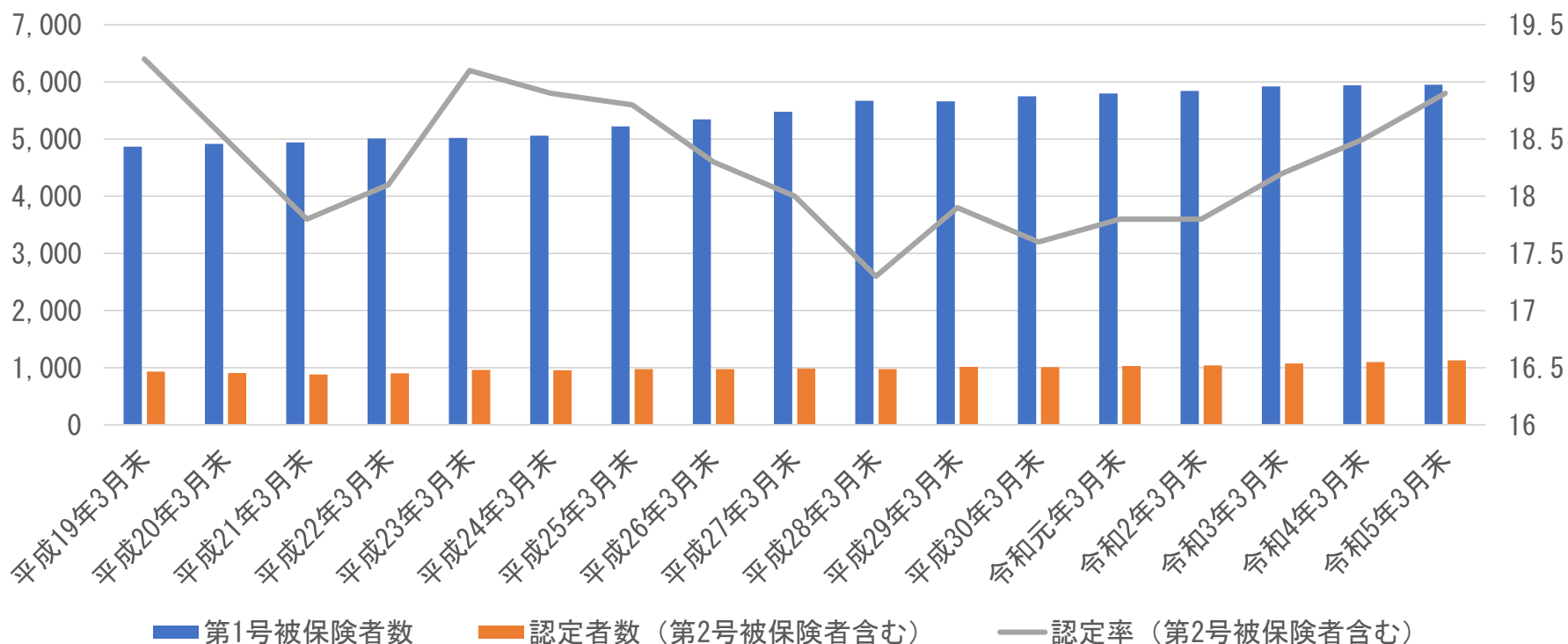
御船町は、平成25年度から介護保険事業計画策定のための調査として、日本老年学的評価研究（JAGES）との協働で、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（健康とくらしの調査）を継続的に行い、調査データを活用し、プライマリヘルスケアの視点で地域づくりを通じた「誰一人取り残さない」介護予防活動の長期戦略を立案・実践を行っている。また、取組の効果はデータで定期的に評価し、PDCAサイクルを回している。

実施目的

調査データを活用し、プライマリヘルスケアの視点で地域づくりを行い「誰一人取り残さない」介護予防活動の長期戦略を立案・実践し、健康格差の縮小を図る。

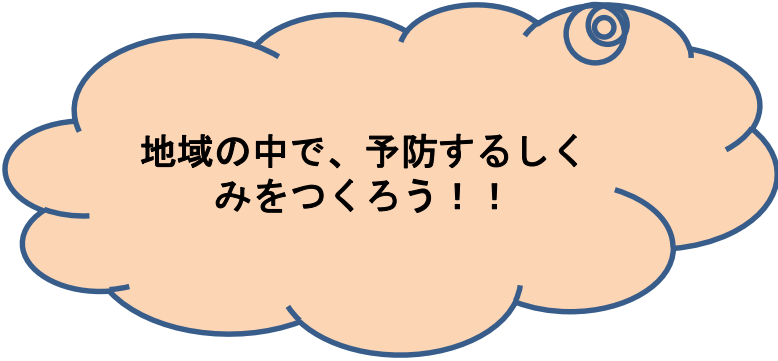
優先課題と重点対象地域を設定してプライマリヘルスケアの視点で地域づくり型の介護予防活動を推進する。

御船町の要介護（支援）認定者数・率の推移

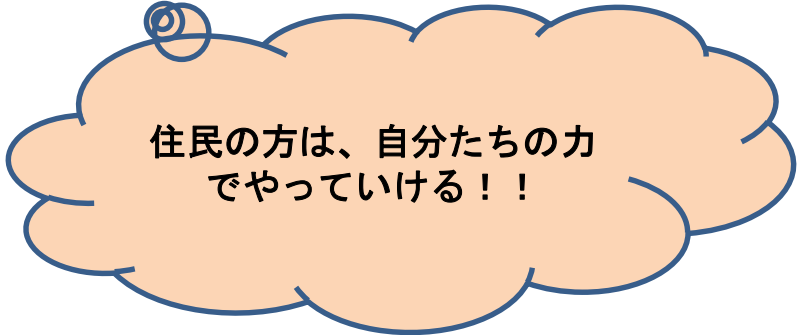


平成18年度からの
地域支援事業に基づく介護予防事業開始を機会に
一般高齢者に重点を置いて事業を推進！！

- ①介護予防・生活支援サポーターの養成
- ②介護予防・生活支援サポーターの組織化と活動支援
- ③介護予防教室（通いの場）の創出
- ④地域の見守り・支え合いの推進



地域の中で、予防するしくみをつくろう！！



住民の方は、自分たちの力でやっていける！！

介護予防・生活支援サポーターの養成



血圧測定



体操



お口の体操



認知症の理解

御船町の介護予防事業の推進体制

介護予防・生活支援サポーター養成講座



登録

約400人



介護予防・生活支援サポーター連絡協議会

住民主体の
通いの場
(元気クラブ、地域サ
ロン等)で
地域活動

介護予防・
生活支援サ
ポーター
代表者会議

介護予防・
生活支援サ
ポーター
現任研修



循環型介護予防システム

元気が出る学校



・元気クラブ
(旧小学校区型
10ヶ所)
・いきいきトレ
ーニング教室
(毎週型3ヶ所)



地域サロン
(令和4年度実
績
71サロン/
69行政区)

介護予防事業の成果

(1) 「介護予防・生活支援サポーター」を養成・組織化し、地域で支える介護予防の推進体制が整備された。

→住民主体の多様なサービス（通いの場）が整備された！

(2) 高齢者や介護予防・生活支援サポーターの参加が増えた。

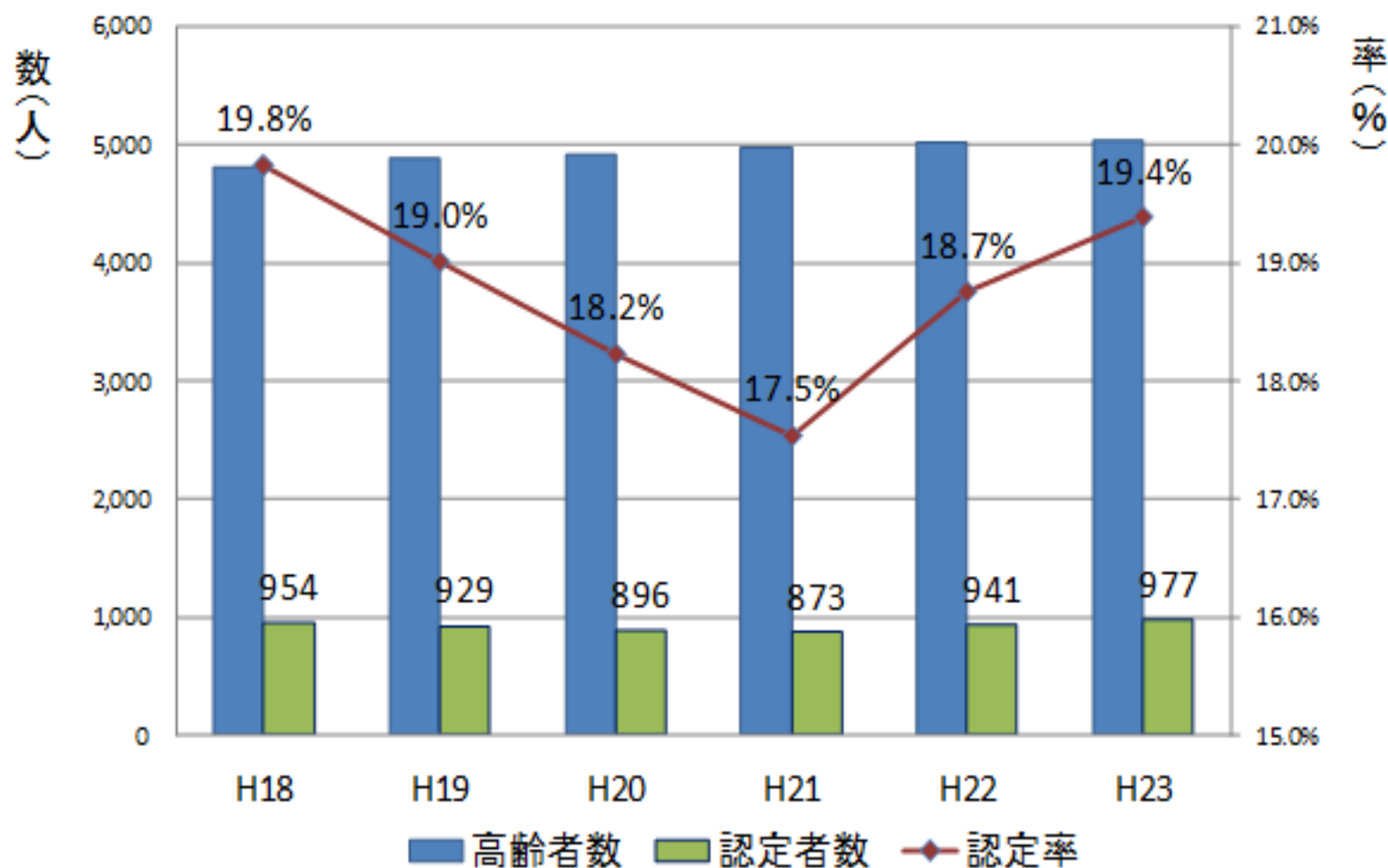
(3) 月2回の開催ではあるが、介護予防の生活化（自宅で継続）の割合が高く、維持改善につながっている。

→参加者は、介護認定を遅らせる効果あり！

(4) 元気クラブやサロンは、地域の見守り・支え合いの社会資源となり、ネットワークづくりの強化につながっている。



御船町の要介護(支援)認定者数・率の推移



取組のきっかけ

町では、以前から高齢者の介護予防やコミュニティの形成に力を入れ、ボランティアを育成しその活動を支援していた。介護予防の推進体制を整備し、公民館等での介護予防事業やサロンなど住民が積極的に取組み、地域の見守りや支え合いの強化に繋がり一定の成果を上げていた。しかし一方で、平成16年度から減少していた要介護認定率が、平成22年頃から上昇傾向に転じ、担当職員は危機感を抱いていた。

平成25年度から介護保険事業計画策定のための調査として、日本老年学的評価研究（JAGES）との協働で、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（健康とくらしの調査）を継続的に行う。

※地域包括ケア推進会議（多部署連携会議）

※優先課題と重点対象地域の設定

※健康格差の改善目標値の設定

※プライマリヘルスケアの視点で地域づくり

※3年毎の事業評価と新たな指標と重点対象地域の選定

「健康とくらしの調査」の地域診断データを活用した地域づくり型の介護予防活動と健康格差対策の推進へ

庁内部署間連携を目指した「地域包括ケア推進会議」



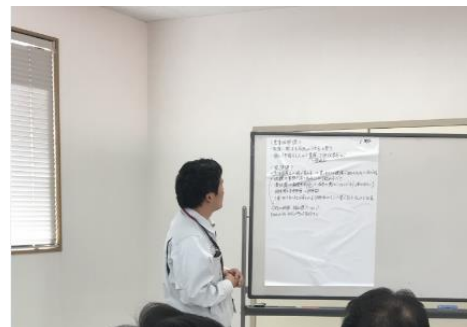
様々な部署が参加

＜議題例＞

・ 地域診断データワークショップ（健康とくらしの調査結果について意見交換）

+

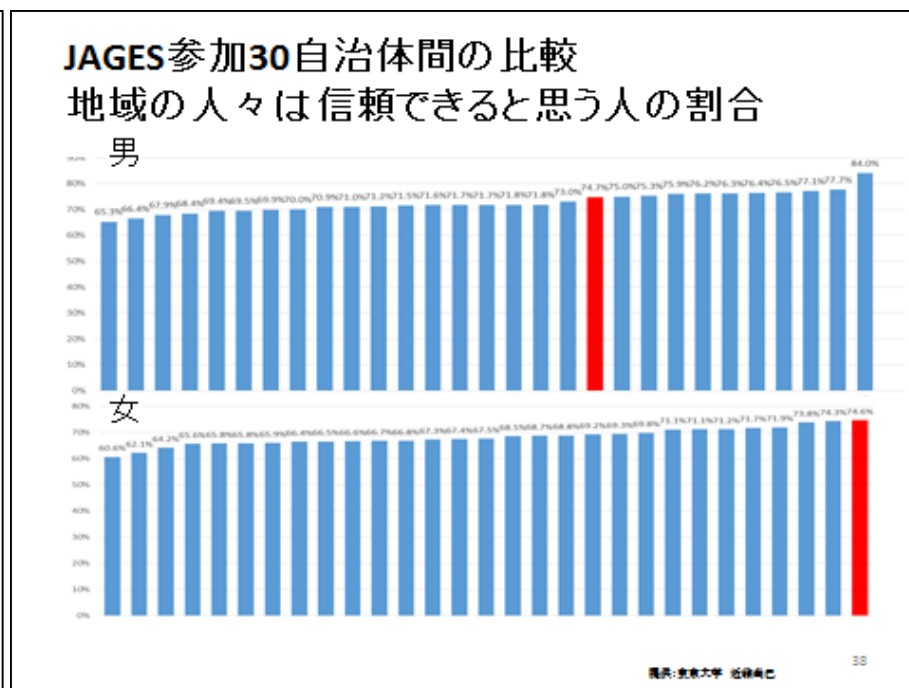
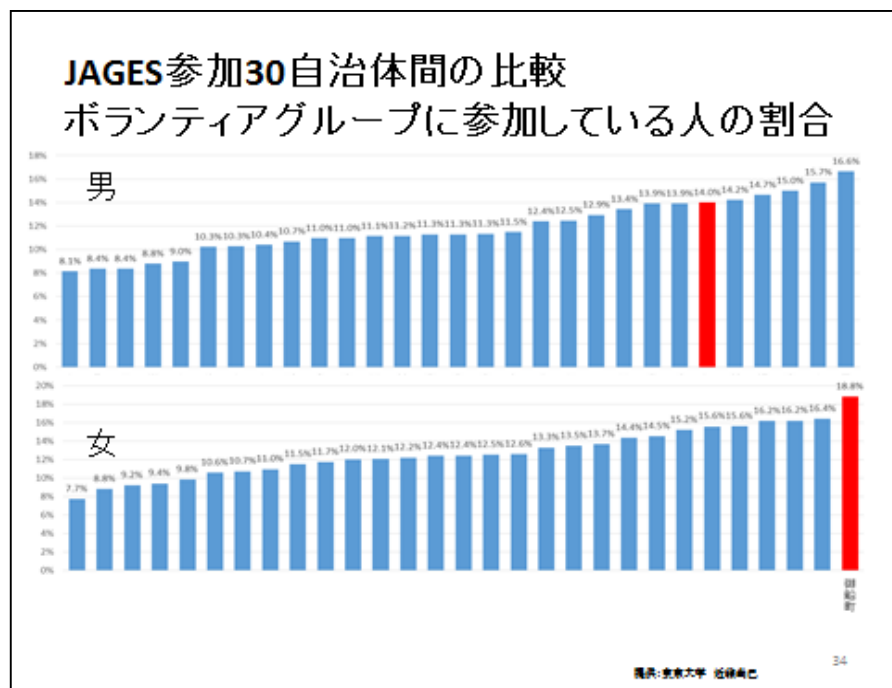
- ・ 仮設住宅の現状と課題
- ・ 避難行動要支援者名簿の運用と課題
- ・ 生活困窮者自立支援制度での高齢者への関わり
- ・ 健康づくりと持続可能な社会保障に向けて
- ・ 家庭から出る一般廃棄物
- ・ 田代西部地区への支援について



《参加者》

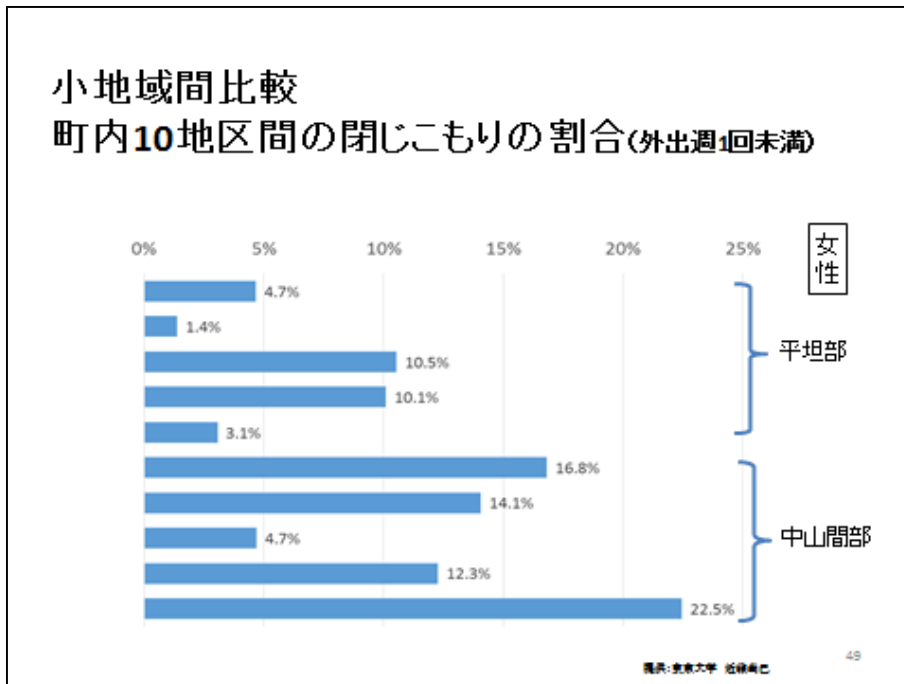
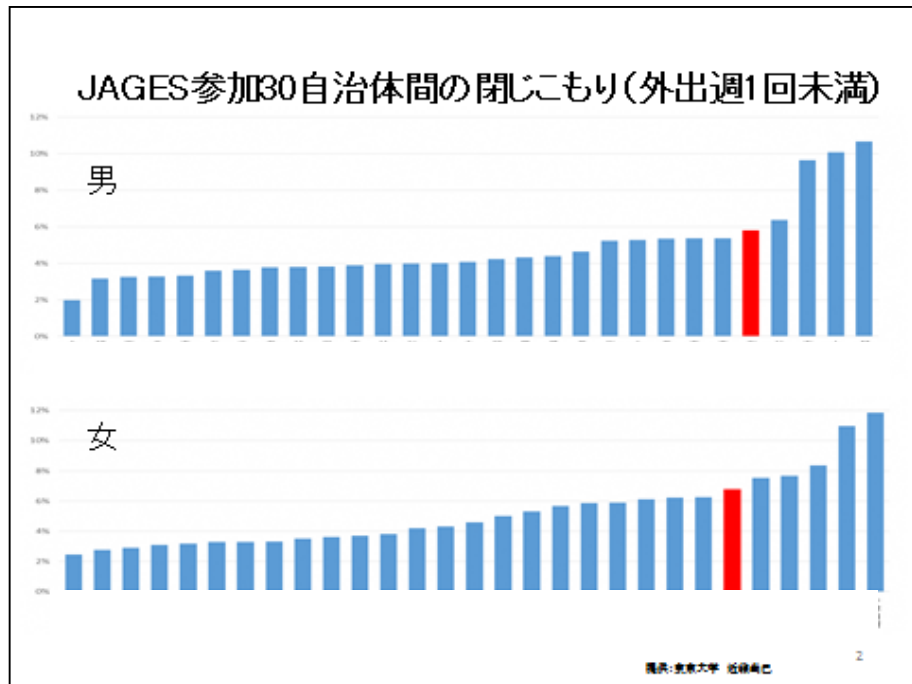
地域防災・環境保全・学校教育・社会教育・建設・企画・農業振興・商工観光・税務・国民保険・健康推進・介護保険・社会福祉・地域包括支援センター・社会福祉協議会職員・JAGES研究者

平成25年度「健康とくらしの調査」結果から見えてきた御船町の特徴



➤ 御船町はJAGES調査に参加している他の自治体に比べて、住民同士の信頼が高く、社会参加も多い。

平成25年度「健康とくらしの調査」結果から見えてきた御船町の特徴



➤ しかし、一方で閉じこもりの割合が高い。（「閉じこもり」の定義は、病院受診や畑仕事を含む外出の機会が週1回未満をさす。）

➤ 特に町内の地域間比較では、中山間地は平坦地よりも社会参加や助け合いが豊富にされている一方で、閉じこもりの割合が高いという、地域間の「格差」が存在した。

第6期介護保険事業計画に明記

閉じこもり地域格差対策の短期・中期・長期目標値

	平坦部	中山間部	割合の差	割合の比
現状（2013年度）	6.1%	11.1%	5.0%ポイント	1.83倍
第6期の目標値（2016年度）	6.0%	10.1%	4.1%ポイント	1.68倍
第7期の目標値（2019年度）	5.5%	9.0%	3.5%ポイント	1.64倍
第8期の目標値（2022年度）	5.0%	8.0%	3.0%ポイント	1.60倍

※閉じこもり高齢者の割合（年齢調整済）

最優先課題を「閉じこもり対策」、「中山間地」にターゲットを絞る！

第1回住民ワークショップ（参加者：25名）

○平成26年10月20日（月）19：00～21：00

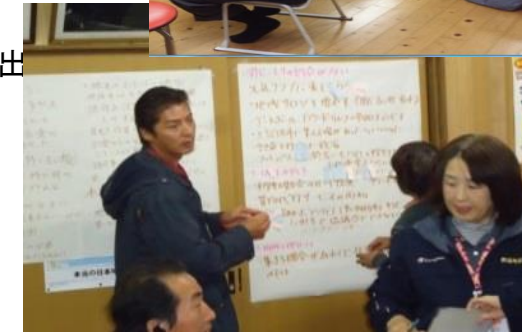
内容 事業主旨説明会・地域課題の確認

講演「健康とくらしの調査から見てきたこと」

テーマ「地域の課題を確認しよう！」

【地域の課題】

- ★連れ合いが亡くなると閉じこもりになりやす
- ★一人暮らしの高齢者の災害時の避難が困難
- ★協議会の活動を地域全体に広げたい。
- ★自分が元気でないといけない。



第2回住民ワークショップ（参加者：13名）

○平成26年11月18日（火）19：00～21：00

テーマ「地域の課題解決に向けてアイデアを出し合おう！」

【アイデア】

- ★配食を考えていた。集まってもらって皆で食べると汁物が出
- ★高齢者の社会参加の機会を増やそう！
- ★収入が得られる仕組みを構築しよう！
- ★旧滝水小中学校のトイレを使えるようにしてほしい！

第3回住民ワークショップ（参加者：17名）

○平成26年12月16日（火）19：00～21：00

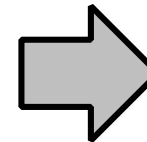
テーマ「次年度の事業の企画書を作ろう！」

【見守り・配食グループ】

- ★現在ある見守り隊との連携
- ★配食・会食へのお誘い
- ★名簿づくり

【集いのグループ】

- ★なかなか家から出てこれない人に来てもらうようにする
- ★旧学校施設を活用して集まろう
- ★畳を置いて休憩所をつくる



旧滝水小中学校施設整備の実施

介護予防・生活支援サポーターの養成

A地区 ホタルの学校



会食と配食



平成25年度調査と平成28年度調査の比較

町全体では、

●当初の目標を上回る閉じこもりの地域格差の是正がみられた。

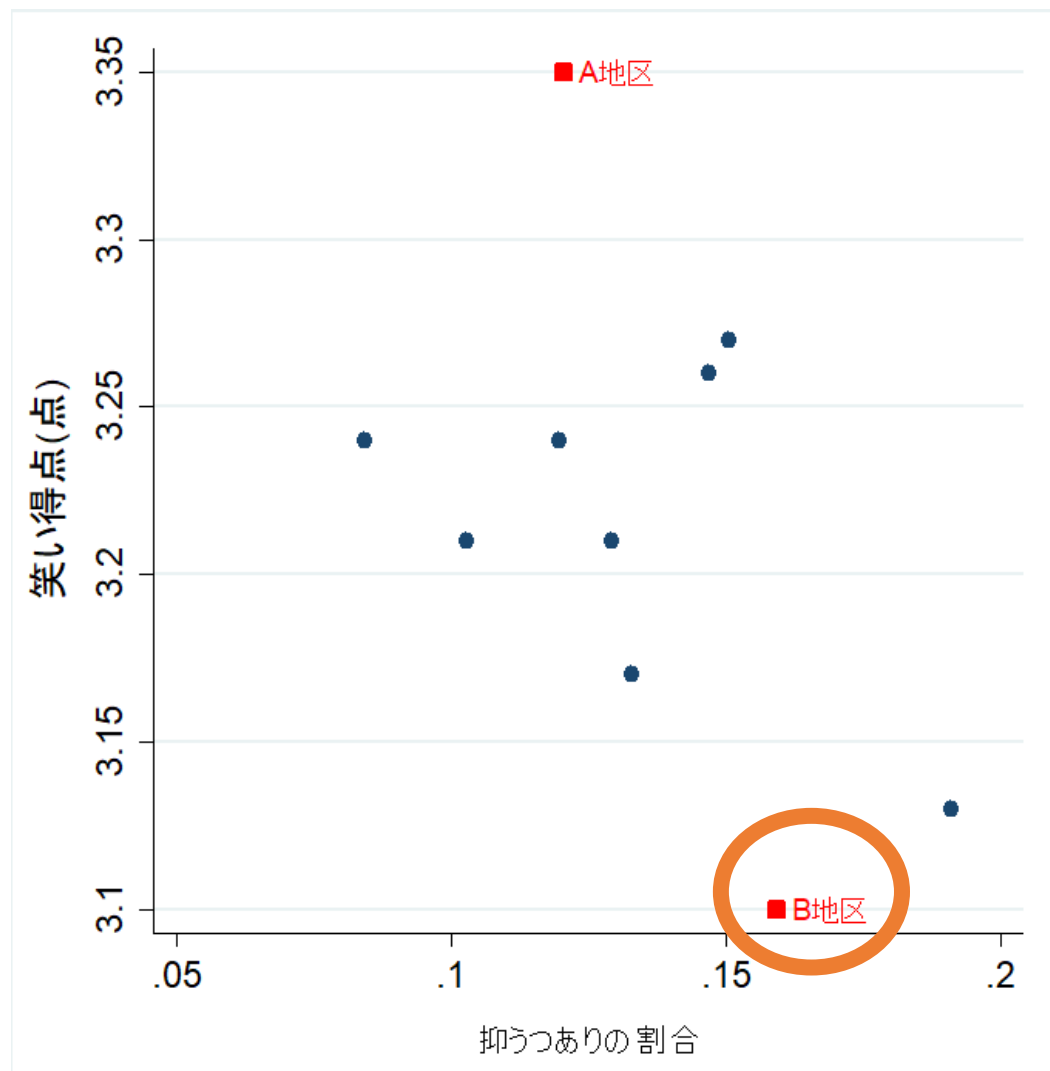
※閉じこもり高齢者の割合（年齢調整済）

	平坦部	中山間部	割合の差	割合の比
平成25年度調査	6. 1%	11. 1%	5. 0%ポイント	1. 83倍
第6期目標値 (平成28年度調査時)	6. 0%	10. 1%	4. 1%ポイント	1. 68倍
平成28年度調査	5. 7%	8. 3%	2. 6%ポイント	1. 45倍

A地区では、

- 趣味の会に月1回以上参加している人の割合が22. 1%ポイント増加
- ボランティアに参加している人の割合が9. 7%ポイント増加
- 月3～9人交流する友人がいる人の割合が9. 5%ポイント増加
- 要介護リスク者の割合が14. 0%ポイント減少

笑いと抑うつの関係



縦軸

「笑う機会」を点数化

- ①ほぼ毎日：4点
- ②週1～5回：3点
- ③月に1～3回：2点
- ④ほとんどない：1点

横軸

抑うつに関する設問の該当状況を数値化

相関係数

-0.82 (p値：<0.001)

出典：御船町高齢者保健福祉計画
第7期介護保険事業計画

B地区 地区座談会

- 先進事例：A地区ホテルの学校の取り組みを紹介
(座談会：平成30年11月14日実施)



一体、何をすればいいのか。

- ・ きらり美笑会での話し合い
- ・ アンケート調査



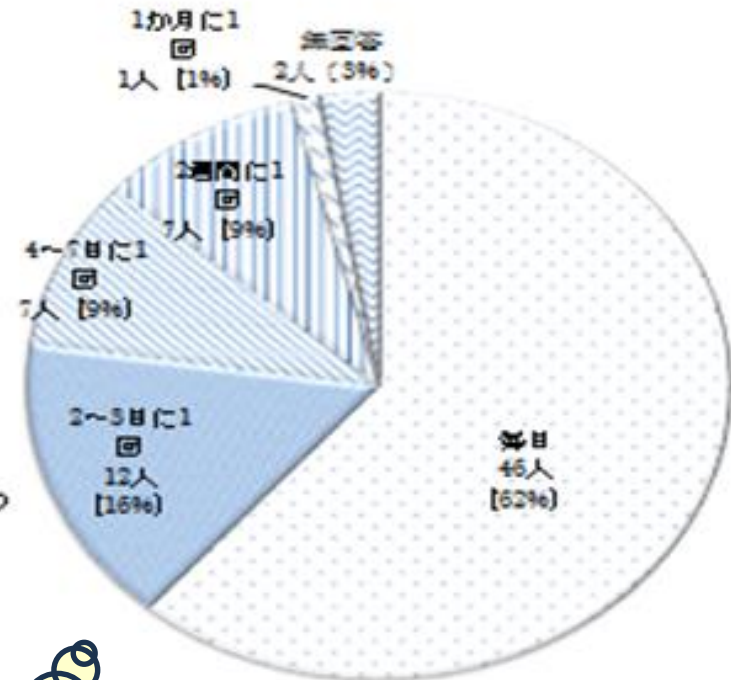
B地区（女性部）座談会
「きらり美笑会」発足
平成30年6月28日（木）



- 平成30年度 B地区アンケート調査
- ・ 期間：平成30年12月4日～12月14日
 - ・ 回答者 75名（回収率69.4%）
 - ・ B地区の65歳以上の108名に調査票配布

問4 あなたは普段どの程度、人と会話や世間話をしますか。

- ◆「毎日人と会話している」人は、46人(62%)となっています。
- ◆「2～3日に1回」の人は、12人(16%)となっています。
- ◆「4～7日に1回」の人は、7人(9%)となっています。
- ◆「2週間に1回」の人は、7人(9%)となっています。
- ◆「1か月に1回」の人は、1人(1%)となっています。



人との会話を1週間以上
していない人が約20%

第1回会議 住民ワークショップ

○平成30年5月17日

内容 事業主旨説明会・地域課題の確認

第2回会議 住民ワークショップ

○平成30年7月17日

内容 前回の会議を振り返って（地域課題の共有）
セレブリティインタビュー（各役職の紹介と課題と感ること）

第3回会議 研修会、ワークショップ

○平成30年10月30日

内容 地域の社会資源確認（前回の会議を振り返って）
講話 「10年後の今に備えて、今から備えること」
講師 くまもと健康支援研究所 代表取締役 松尾 洋 氏

第4回会議 研修会、ワークショップ

○平成30年11月14日

内容 生活支援サービスの具体化
講話① 「地域の活性化を進めるために」
～限界集落を元気に生きるため、地域住民は何をすべきか？～
講師 A地区活性化協議会
講話② 「A地区での介護予防活動の成果」
講師 長谷田真帆氏 他東京大学大学院医学系
研究科健康教育・社会学分野チーム

第5回会議 生活支援サービスの具体策

○平成31年3月26日

「きらり微笑会」の今後の活動について
介護予防・生活支援サポーター養成講座修了証及び認定証交付式



「きらり微笑会」の発足
アンケート調査実施

介護予防・生活支援
サポーターの養成（13名）

介護予防・生活支援サポーターの養成



B地区介護予防・生活支援サポーター養成講座
平成31年2月12日、19日、26日



B地区の
サポーター
のルールを
決めよう！



サポーターの活動開始（開校式）

人生 百歳クラブ

令和元年7月10日
開校式



音楽・リズム体操



お口の健康講話

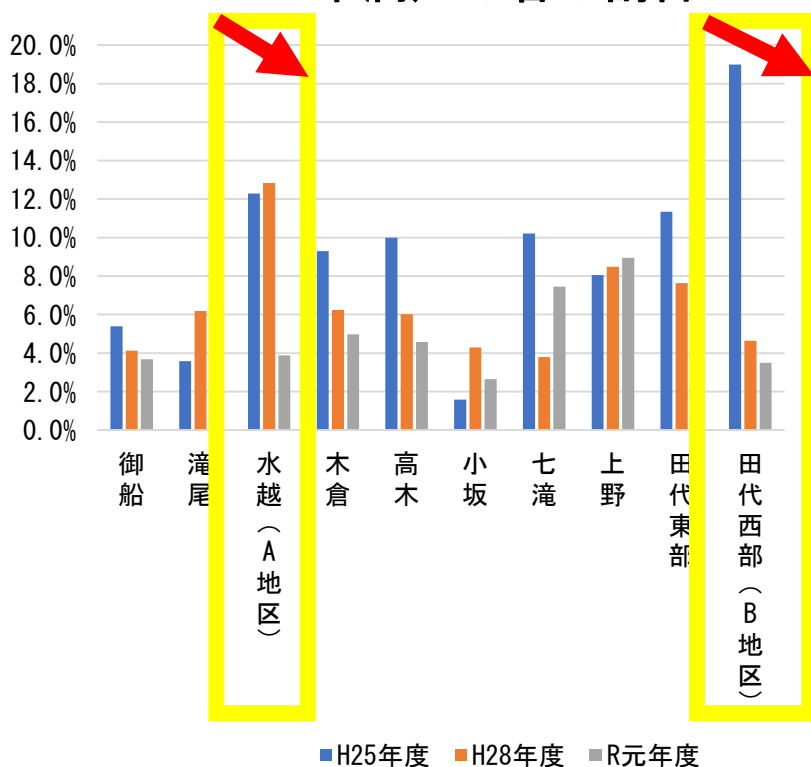


第7期介護保険事業計画 B地区 取組の評価

健康とくらしの調査

平成25年度・平成28年度・令和元年度結果 年度推移
閉じこもり（外出頻度が週1回未満）の者の割合

閉じこもり（外出頻度が週1回未満）の者の割合



	H25年度	H28年度	R元年度
御船	5.4%	4.1%	3.7%
滝尾	3.6%	6.2%	3.4%
水越 (A地区)	12.3%	12.8%	3.9%
木倉	9.3%	6.2%	5.0%
高木	10.0%	6.0%	4.6%
小坂	1.6%	4.3%	2.6%
七滝 (C地区)	10.2%	3.8%	7.5%
上野	8.1%	8.5%	8.9%
田代東部	11.3%	7.6%	5.6%
田代西部 (B地区)	19.0%	4.6%	3.5%

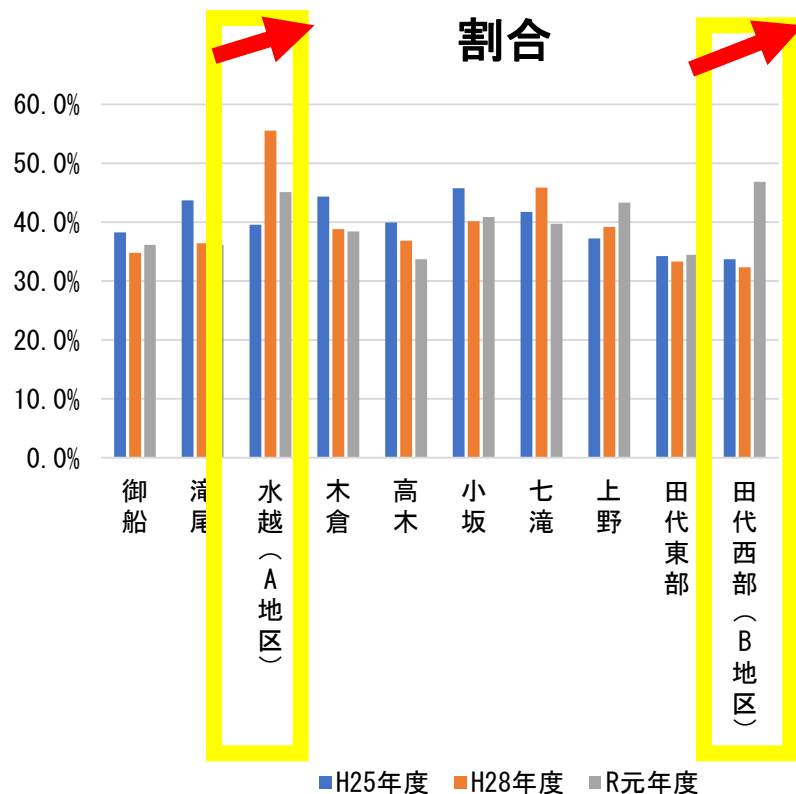
➡ 改善

第7期介護保険事業計画 B地区 取組の評価

健康とくらしの調査

平成25年度・平成28年度・令和元年度結果 年度推移
交流する友人が10人以上/月の者の割合

交流する友人が10人以上/月の者の割合



	H25年度	H28年度	R元年度
御船	38.3%	34.8%	36.1%
滝尾	43.7%	36.4%	36.1%
水越 (A地区)	39.5%	55.5%	45.1%
木倉	44.3%	38.8%	38.4%
高木	40.0%	36.9%	33.7%
小坂	45.8%	40.2%	40.9%
七滝 (C地区)	41.8%	45.9%	39.7%
上野	37.2%	39.2%	43.3%
田代東部	34.3%	33.3%	34.4%
田代西部 (B地区)	33.7%	32.4%	46.9%

➡ 改善

令和元年度調査で追加された新たな指標

「趣味の会、学習・教養サークルの会への参加機会の促進」

「認知機能低下者の割合」

健康とくらしの調査に参加した64自治体との比較検証で、「趣味の会の参加割合」

「学習・教養サークル参加割合」が平成28年度調査より悪化しており、全国でも順位が低い結果でした。趣味の会や学習・教養サークルの会の参加割合が高い地域ほど認知症リスク者割合が低くなっており、地域間の格差が生じていることも分かりました。

新たな介入地域

中山間地「C地区」

C地区選定理由

- ①令和2年度の地域包括ケア推進会議で提案
- ②令和元年（2019）の地域診断結果で前回調査より低下した点があり心配
 - ・ 閉じこもり者割合
 - ・ 友人知人と会う頻度が高い者の割合
 - ・ 交流する友人がいる者の割合
- ③元気クラブ参加者の減少
- ④地域サロン参加者の減少（休止サロン）
- ⑤C地区の社会資源活用
（公民館・地区社協・郵便局・移動販売・元気組・カフェ・・・）

No	指標名	小地域名 順位									
								C 地区			
1	コア:幸福感がある者の割合	5	2	4	6	8	1	6	3	9	10
2	コア:要支援・要介護リスク得点の平均点	7	5	3	1	2	6	4	8	10	9
3	コア:フレイルあり割合	3	3	6	5	7	1	8	9	2	10
4	コア:運動機能低下者割合	3	6	7	1	4	2	5	9	8	10
5	コア:1年間の転倒あり割合	2	5	3	1	4	9	7	6	8	10
6	コア:認知症リスク者割合	3	7	4	2	5	1	6	8	8	10
7	コア:物忘れが多い者の割合	4	5	1	2	8	3	7	9	6	10
8	コア:口腔機能低下者割合	4	4	6	1	3	2	8	7	9	10
9	コア:残歯数19本以下の者の割合	5	4	2	1	3	6	10	8	7	9
10	コア:うつ割合（GDS5点以上）	2	1	3	9	8	4	5	6	10	7
11	コア:閉じこもり者割合	4	7	1	3	2	9	10	8	5	6
12	コア:スポーツの会参加者割合	5	9	2	8	4	1	7	10	6	3
13	コア:趣味の会参加者割合	6	2	4	7	5	3	9	10	1	8
14	コア:ボランティア参加者割合	8	5	6	10	3	7	9	4	1	2
15	コア:学習・教養サークル参加者割合	3	6	3	1	5	8	7	9	2	10
16	コア:特技や経験を他者に伝える活動参加者割合	8	3	5	7	4	5	2	9	1	10
17	コア:友人知人と会う頻度が高い者の割合	6	5	7	10	9	4	1	2	8	3
18	コア:交流する友人がいる者の割合	8	5	4	9	7	5	2	10	3	1
19	コア:情緒的（心配事や愚痴）サポート受領者割合	5	2	8	6	3	10	9	4	1	7
20	コア:情緒的（心配事や愚痴）サポート提供者割合	3	1	8	4	6	2	9	7	10	5
21	コア:手段的（看病や世話）サポート受領者割合	8	1	6	3	7	9	10	2	4	5
22	コア:手段的（看病や世話）サポート提供者割合	9	6	7	8	3	2	5	4	1	10
23	コア:ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）	6	4	3	7	5	1	9	10	2	8
24	コア:ソーシャル・キャピタル得点（連帯感）	6	4	10	9	8	1	3	2	7	5
25	コア:ソーシャル・キャピタル得点（助け合い）	5	1	6	2	4	8	10	3	9	7

第1回会議 住民ワークショップ

○令和3年10月22日

内容 事業主旨説明会・地域課題の確認

第2回会議 住民ワークショップ

○令和4年1月19日

内容 「地域公共交通計画地区別懇談会」と同時開催

第3回会議 住民ワークショップ

○令和4年3月24日

内容 地域のリーダーのトークショー
セレブリティインタビュー、経験共有金魚鉢

第4回会議 住民ワークショップ

○令和4年4月15日

内容 皆で考える令和4年度の取組について

※なお、3回目・4回目の講師は、
熊本学園大学社会福祉学部福祉環境学科
那須 久史 先生



メンバー：公民館長、校区社協会長、
区長、民生委員、元気組、福祉協力員
社会福祉協議会、福祉課

第1回会議 『企画会議』

○令和4年4月27日

内容 予算、これまでの取組、年間計画について

第2回会議 『企画会議』

○令和4年5月20日

内容 介護予防・生活支援サポーター養成講座、
運転者講習、補助金について

第3回会議 『企画会議』

○令和4年7月22日

内容 今後の活動、実施団体、地域の講師について

第4回会議 『企画会議』

○令和4年12月13日

内容 今後の活動計画、
介護予防・生活支援サポーターの活動について

今後、実行委員を募ってやろう！
『企画会議』開始！



C地区中山間地域福祉推進モデル事業

(令和4年度)

- ・ 5月8日
幻の七滝復活祭り
- ・ 11月27日
七滝元気祭り
- ・ 七滝校区社協の活動
- ・ 元気組の活動



介護予防・生活支援サポーター養成講座
6/27、7/15、7/29 3日間 15名受講
7/29 たすくるメイト養成講座 16名受講



8月19日 見守りネットワーク連絡会
内容 見守り情報交換、緊急安心カード等



8月28日 運転者講習 11名受講
講師 ふくし生協



C地区中山間地域福祉推進モデル事業

【nanaヨガ教室】

目的：C地区の介護予防・生活支援サポーターで開始。若い年代の健康増進、仲間づくり。

- ・令和4年9月8日～毎週木曜日19時～20時
令和4年12月8日～一般の方も募集
- ・内容：ヨガの講師による教室。
令和5年7月～DVDを用い自分達で実施。

地域サロンを立ち上げたい。

介護予防・生活支援サポーターで活躍してみたい。

nanaヨガ教室参加で
体重減少！健診結果が楽しみ！



【nana色クラブ】

目的：C地区の地域住民が集い、安心・安全な暮らしができるようふれあいの場を創設。閉じこもり防止、仲間づくり、地域の支え合いの強化。

- ・令和4年10月26日～ 月1回イベントを行う。
- ・内容：ゲーム、健康体操、クリスマス会、地域の方を講師として竹箒づくり、e-スポーツ、音楽療法士による音楽鑑賞

みんなの前で
体操できるかな。

子どもたちと
一緒にe-スポーツ

男性の出番
竹箒づくり



地域診断データを活用した健康格差対策の経緯

時 期	概 要
平成25年度	・平成25年度健康とくらしの調査(JAGES調査) ・「地域包括ケア推進会議(多部署連携)」の定期開催開始
平成26年度	・優先課題を「閉じこもり」、重点対象地域を中山間地「A地区」に決定 ・第6期介護保険事業計画に「閉じこもり」の格差対策の数値目標を盛り込む ・ボランティア育成(介護予防・生活支援サポーター養成) ・廃校施設の施設整備等
平成27年度	・A地区でモデル事業開始(ホタルの学校、配食サービス) ・A地域活性化協議会に体験交流部、加工部、生産部に加え福祉部が設置される
平成28年度	熊本地震、豪雨災害 ・ホタルの学校を一般介護予防事業へ移行(7月からスタート) ・配食サービス開始(18歳未満、65歳以上の利用分は社協より一部補助) ・平成28年度健康とくらしの調査(JAGES調査)
平成29年度	・評価:閉じこもりの地域格差の是正がみられた ・第7期介護保険事業計画に新たな目標追加:「笑いの頻度」 ・重点対象を中山間地「B地区」に決定
平成30年度	・B地区(美緑のむら里委員会)で話し合い開始 ・女性の集まり(きらり美笑会)発足、アンケート調査実施 ・ボランティア育成(介護予防・生活支援サポーター養成)

地域診断データを活用した健康格差対策の経緯

時 期	概 要
令和元年度	・B地区モデル事業開始(人生百歳クラブ) ・令和元年度健康とくらしの調査(JAGES調査) ・新型コロナウイルス感染者の発生
令和2年度	・評価: 閉じこもりの割合・地域格差ともさらに改善。笑いは著変なし。 ・第8期介護保険事業計画に新たな目標を追加: 「趣味の会、学習・教養グループの参加の機会の促進」 「認知機能低下者割合の改善」 ・重点対象地域を中山間地「C地区」に決定。 ・人生百歳クラブを一般介護予防事業へ移行 ・新型コロナウイルス感染の拡大始まる
令和3年度	・C地区(公民館分館長、区長会、地区社協、元気組)で話し合い開始 ・地域公共交通計画策定地域懇談会と同時開催 ・新型コロナウイルス感染症ワクチン接種開始
令和4年度	・C地区実行委員による企画会議開始 ・ボランティア育成(支え合い型ドライバー、介護予防・生活支援サポーター養成) ・モデル事業開始(nanaヨガ教室、nana色クラブ) ・令和4年度健康とくらしの調査(JAGES調査)
令和5年度	・第9期介護保険事業計画に新たな目標を追加予定。 ・重点対象地域を中山間地「D地区」「E地区」に決定予定。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（健康とくらしの調査）の概要

健康とくらしの調査について

【平成25年度】

- ◆調査対象者：平成25年4月1日時点で65歳以上である要介護認定を受けていない男女
- ◆対象者数：2,000人
- ◆調査方法：郵送法
- ◆調査期間：平成25年10月22日～11月11日
- ◆回収結果（回収率）：1,428票（71.4%）

【平成28年度】

- ◆調査対象者：平成28年4月1日時点で65歳以上である高齢者（事業対象者、要支援者含む）
- ◆対象者数：4,821人
- ◆調査方法：郵送法
- ◆調査期間：平成28年11月14日～12月5日
- ◆回収結果（回収率）：3,097票（64.2%）

【令和元年度】

- ◆調査対象者：令和元年10月29日時点で65歳以上である高齢者（事業対象者、要支援者含む）
- ◆対象者数：4,993人
- ◆調査方法：郵送法
- ◆調査期間：令和元年11月25日～12月16日
- ◆回収結果（回収率）：3,277票（65.6%）

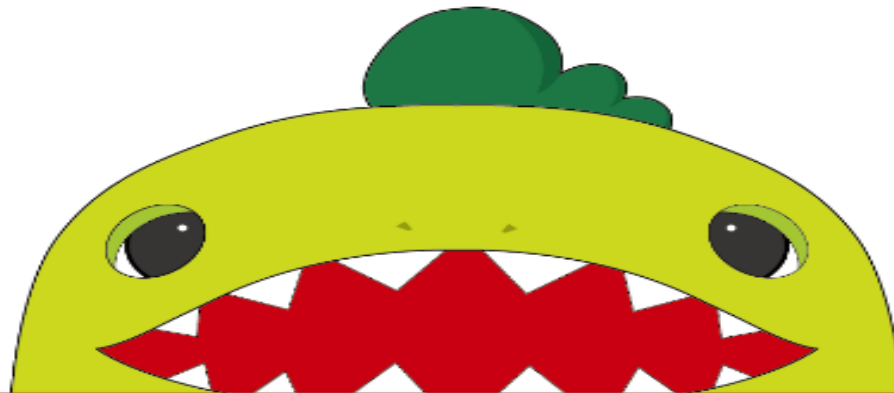
【令和4年度】

- ◆調査対象者：令和4年10月1日時点で65歳以上である高齢者（事業対象者、要支援者含む）
- ◆対象者数：5,111人
- ◆調査方法：郵送法
- ◆調査期間：令和4年11月7日～11月28日
- ◆回収結果（回収率）：3,333票（65.2%）

中山間地域における取り組みのまとめ

・ 中山間地域とは：水越・田代西部・七滝・上野・田代東部

介護保険事業計画	取り組み及び関連団体
第5期介護保険事業計画期間 (H24年度～H26年度)	元気クラブ
第6期介護保険事業計画期間 (H27年度～H29年度)	水越地区（A地区）「水越ホタルの学校」 水越地域活性化協議会
第7期介護保険事業計画期間 (H30年度～R2年度)	田代西部地区（B地区）「人生百歳クラブ」 美緑のむら里実行委員会、きらり美笑会
第8期介護保険事業計画期間 (R3年度～R5年度)	七滝地区（C地区） 「nana色クラブ」「nanaヨガ教室」 七滝地区社協
第9期介護保険事業計画期間 (R6年度～R8年度)	上野地区（D地区）？ 田代東部地区（E地区）？



PRポイント

1 「地域包括ケア推進会議」の定期開催

保健や福祉分野だけでなく、庁内の多部署や住民組織、民間団体との連携による「コミュニティの組織化」（コミュニティの集団が共通の目的に向かって連携し、課題解決のための活動を進めること）が有効と考えた。

2 地域診断に基づく目標設定と客観指標によるマネジメント計画が完成

優先課題と重点対象地域を選定し、地域診断データを戦略的に活用し事業展開

3年毎に評価を行いPDCAサイクルを回している。

3 プライマリヘルスケアの視点を活かした取り組み

住民のニーズ、地域資源を活かし誰もが参加できるような活動を様々な組織と連携して進めた。住民は地域課題を自分事として受け入れ、主体的に取り組むことができた。A地区からB地区、C地区への横展開に繋がっている。

健康格差対策の評価：閉じこもり高齢者割合の変化

	平坦部	中山間部	割合の差	割合の比
平成25年度調査（再掲）	6.1%	11.1%	5.0% ポイント	1.81倍
第6期評価（平成28年度調査）	5.7%	8.3%	2.6% ポイント	1.45倍
第7期評価（令和元年度調査）	3.7%	6.3%	2.6% ポイント	1.70倍
第8期評価（令和 4年度調査）	3.9%	6.1%	2.2% ポイント	1.56倍

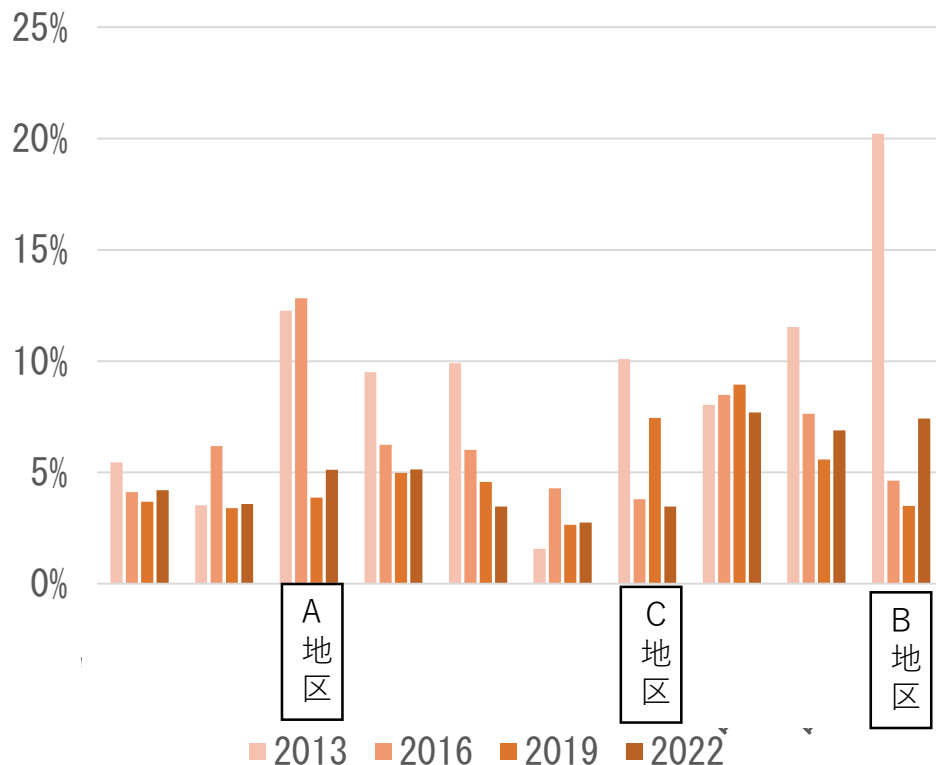
※閉じこもり高齢者割合（年齢調整済）

閉じこもり高齢者の割合及び地域間格差は、介入前の平成25年度調査に比べ、 令和4年度調査は改善	2.8%ポイント改善	0.25倍改善
--	------------	---------

閉じこもり割合

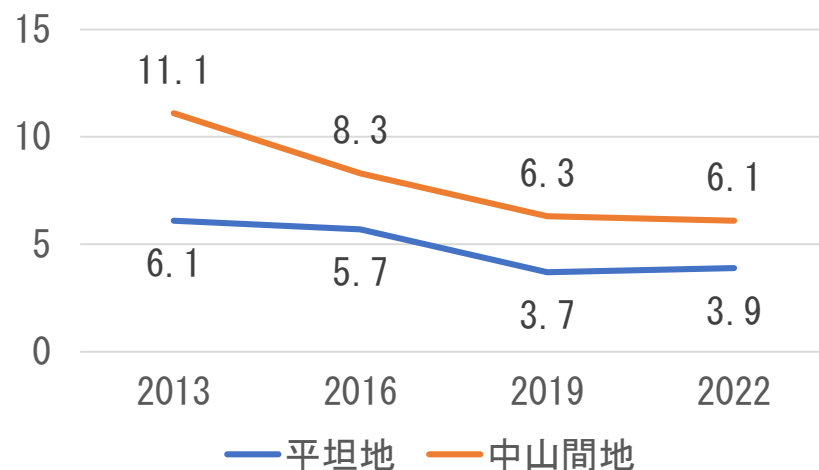
「あなたが外出する頻度はどのくらいですか（畑や隣近所へ行く、買い物、通院などを含みます）。」
→週1回未満（「月1-3回」「年に数回」「していない」）と回答した人を「閉じこもり」とした

旧小学校区ごと



平坦地・中山間地

地区ごとの閉じこもり割合の経年変化



平坦地：御船・滝尾・木倉・高木・小坂
中山間地：水越・七滝・上野・田代東部・田代西部

取組みの結果、閉じこもりの地域間格差（平坦地と中山間地）の是正がみられた。

取組の効果

地域診断データの戦略的な活用と部署間の連携により、効果的な住民支援が可能となり、結果として地域全体で地域による高齢者の健康増進及び健康格差の縮小が図られていくと考える。

また、庁内の部署間連携の機運は高まりつつあり、様々な取組が多部署連携で取り組まれるようになっていく。

今後の取組

引き続き、プライマリヘルスケアの視点で地域づくりを通じた「誰一人取り残さない」介護予防活動の推進に努めていく。

新たな目標や重点対象地域を選定し、今後も他地区への横展開を進めて行く。また、これまで関わりが少なかった町内企業連絡協議会との連携についても進めて行く予定である。

参考資料

介護予防・生活支援サービス事業について

★訪問型サービス

事業・サービス種別		サービス名	内容	令和4年度実施状況 ()は令和3年度
訪問型サービス	訪問型従前相当サービス	指定訪問型サービス	訪問介護事業所によるヘルパーの派遣（ホームヘルプ） 【頻度】週1～3回程度	令和5年3月分利用件数 ※（ ）は令和4年3月分利用件数 週1回：28件（22件） 週2回：14件（10件） 週3回：2件（4件）
	訪問型サービスB	生活たすくるサービス事業	住民主体による家事支援 【頻度】週1回程度	実たすくるメイト数：13名（14名） 実利用者数：13名（13名） 延利用時間：332.5時間（339.5時間） たすくるメイト新規養成者数：9名 平成29年度～ たすくるメイト養成者累積数：55名

介護予防・生活支援サービス事業について

★通所型サービス

事業・サービス種別		サービス名	内容	令和4年度実施状況 ()は令和3年度
通所型サービス	通所型従前相当サービス	指定通所型サービス	通所介護事業所による日帰りの日常生活支援（デｲサービス） 【頻度】週1～2回程度	令和5年3月分利用件数 ※()は令和4年3月分利用件数 週1回：18件（19件） 週2回：13件（20件）
	通所型サービスA	いきいきトレーニング教室	介護予防・生活支援サポーターを中心とした教室 【頻度】週1回 【場所】3箇所	開催回数：123回（81回） 延参加者数：692名（582名） 実参加者数：33名（42名）
	通所型サービスC	元気になる学校	短期集中型予防サービス 【頻度】週1回 【場所】1箇所 【期間】4ヶ月間	開催回数：47回（48回） ※訪問および電話支援含む。 延参加者数：252名（271名） 実参加者数：30名（30名）

一般介護予防事業

事業・サービス種別	サービス名	内容	令和4年度実施状況 ()は令和3年度
一般介護予防事業	元気クラブ	介護予防・生活支援サポーターを中心とした教室 【頻度】月2回 【場所】10箇所（旧小学校区ごと）	開催回数：200回（138回） 延参加者数：1,396名（1,060名） 実参加者数：122名（132名）
	水越ホタルの学校	水越活性化協議会を中心に運動や学習、食事会の開催 【頻度】月1回 【対象地域】水越地域	開催回数：11回（9回） 延参加者数：110名（102名） 実参加者数：16名（25名）
	人生百歳クラブ	田代西部地区にて体操や、レクリエーション、健康教室の開催 【頻度】月1回 【対象地域】田代西部地域	開催回数：12回（9回） 延参加者数：83名（95名） 実参加者数：10名（13名）

地域サロン

事業・サービス種別	サービス名	内容	令和4年度実施状況 ()は令和3年度
小地域ネットワーク事業	地域サロン	御船町社会福祉協議会が実施主体となり、地域の高齢者、介護予防・生活支援サポーター等が中心となり、実施・運営。 【頻度】月1～週1回 【対象地域】町内全域	開催回数：地域によって異なる。 延参加者数：9,806名（7,118名） 実参加者数：874名（850名） 行政区：69行政区／71サロン （69行政区／71サロン）

七滝地区中山間地域福祉推進モデル事業

事業・サービス種別	サービス名	内容	令和4年度実施状況
中山間地域福祉推進モデル事業 七滝地区	nanaヨガ教室	七滝地区の高齢者、介護予防・生活支援サポーター等が中心となり、実施・運営。 【頻度】月4回 【対象地域】七滝地区	延参加者数：240名 実参加者数：26名 男性：5名 皆勤者：1名 平均年齢：57.19歳
	nana色クラブ	七滝地区の住民の方が講師となり箸づくりや手芸を行ったり、子どもから高齢者まで誰でも楽しめるようにeスポーツ等を実施 【頻度】月1回 【対象地域】七滝地区	延参加者数：89名 実参加者数：36名 男性：5名 皆勤者：6名 平均年齢：70.39歳

地域包括ケア推進会議にて元気クラブの参加者の減少や地域サロンの休止等を理由に七滝地区への介入が決定し、令和3年度より七滝地区で住民ワークショップや企画会議を実施。七滝地区で高齢者を支える担い手の養成のために、介護予防・生活支援サポーター養成講座やたすくメイト養成講座、運転者講習を開催。今後、七滝地区の地域活動や七滝地区見守りネットワーク連絡会等と連携して、活気ある七滝地区の地域づくりを目指していきたい。

平成28年熊本地震

4月14日 21:26 前震発生

御船町 震度 5 強

4月15日 0:03 余震発生

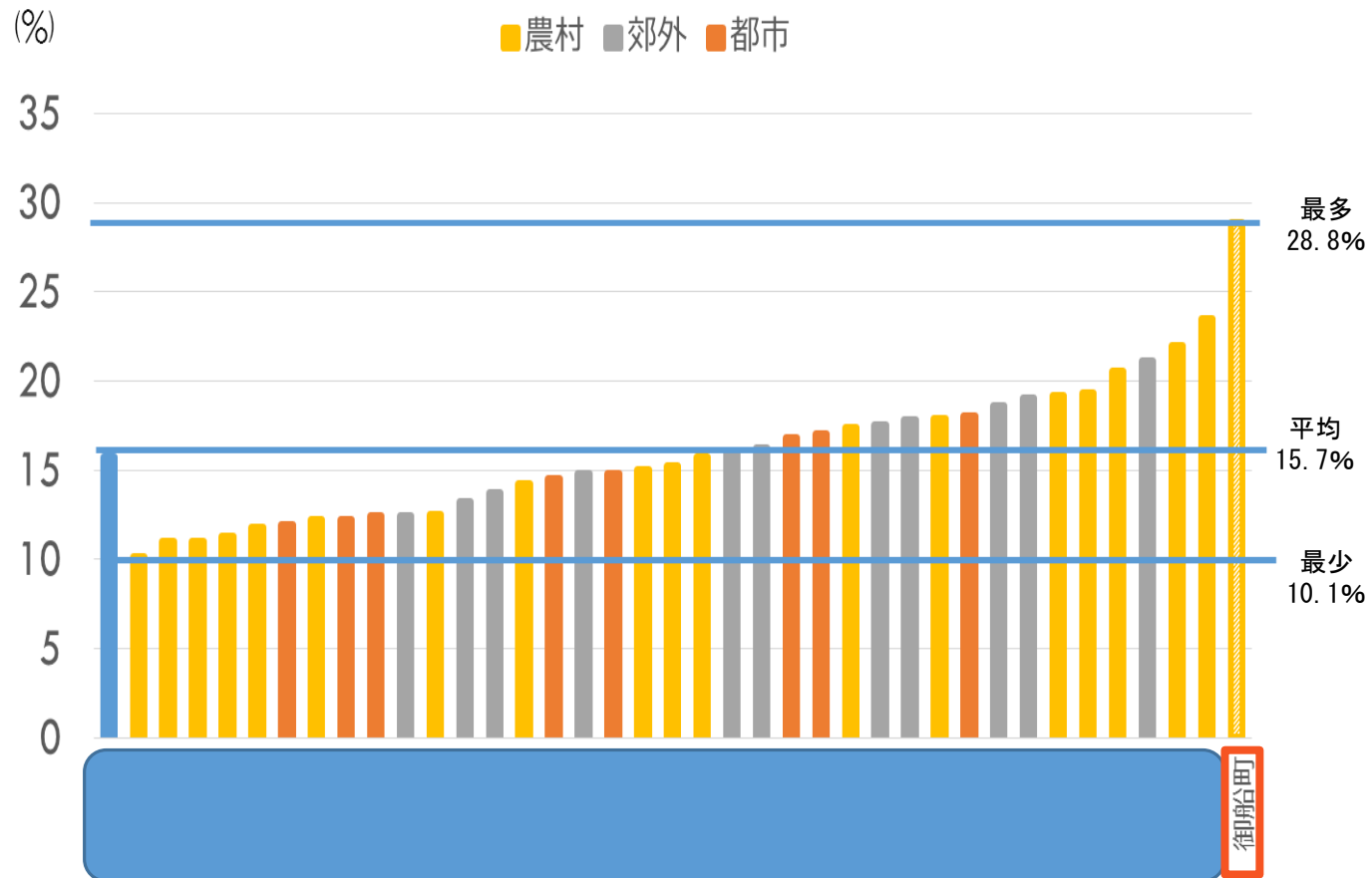
御船町 震度 5 強

4月16日 1:25 本震発生

御船町 震度 6 弱

さらに、6月の豪雨...

サロン参加者割合（市町村比較）



（出典）星城大学 リハビリテーション学部 竹田徳則

健康とくらしの調査2016

問17) サロン活動への参加期間はどれくらいですか 「3. 参加1年未満～8. 参加しているが期間不明」と回答した者の割合

大変な時ほど、 「つながり」「助け合い」が必要

■生活が苦しい時

■災害の時

★ 熊本地震後、2ヵ月後には、3分の2の地域サロンが稼動していた。

4ヵ月後には、残りの3分の1の地域サロンが稼動していた。

※ 地域づくり型による介護予防の取り組みは、災害時に住民の支え合いの力になっていた。

新型コロナウイルス感染症

全ての通いの場（介護予防事業、地域サロン）が活動を休止

令和2年2月24日～5月31日（休止）

令和2年8月5日～8月28日（休止）

令和3年1月5日～2月21日（休止）

令和3年4月26日～6月13日（休止）

令和3年8月8日～8月22日（休止）

令和3年9月9日～9月30日（休止）

令和4年1月21日～3月21日（休止）

令和4年8月4日～8月19日（休止）

令和2年度高齢者のフレイル対策事業

- ①運動プログラム資料・動画作成（DVD、HP公開）
- ②フレイルに関するアンケート調査
- ③ハイリスク者の訪問
- ④休止期間中の介護予防事業参加者の訪問



おわりに

健康格差対策を進めるためには、健康の「上流」にある様々な要因へのアプローチが必須であり、多様な部署間の連携が不可欠であると考えます。部署間連携を進めるツールの一つとして、「地域診断」が有用といわれている。健康格差の視点を取り入れることで、やるべき仕事の取捨選択ができ、一緒に取り組む仲間も増える。

地域診断データの戦略的な活用と部署間の連携により効果的な住民支援が可能となり、結果として地域全体で高齢者の健康増進及び健康格差の縮小が図られていくと考える。